

## 通貨の潮流と地政学リスク

孫子の兵法の名言の中に「百戦百勝は善の善なるものにあらざるなり。戦わずして人の兵を屈するは善の善なるものなり」がある。つまり戦わないで勝つのが最高の策との考えだ。その点ではロシアのウクライナ侵攻は最善の策でないどころか、最善策を狙うものには敗着の一手と映るだろう。

中国の第13期全人代が今月5日から開かれた。そこで李克強首相の政治活動報告をテレビで見たが、とにかく長かった。1時間ほど淡々と話すのだが、途中で飽きた。だが多数の出席者の中で寝ている者はいないように見えた。習近平をはじめ政治局常務委員たちも最前列でじっと聞いていた。中国の権力の座に上るのに最も必要な能力は忍耐力かもしれない。

彼の演説の中で何度も繰り返された言葉は安定だった。経済の安定、市場の安定、国民生活の安定など、人民元の安定とは言わなかったが、演説のトーンからはその点も連想された。

一方目を世界に向けると地政学リスクの高まりで多くの通貨は不安定な状況にある。ロシアルーブルは最たるものだ。直近ではドルルーブルは130水準だが、先月下旬は80にもなっていなかった。ルーブルの売られ方はトルコリラ並み、時間を考えればそれ以上だ。

東欧通貨の下落も大きい。ポーランドズロチはロシアのウクライナ侵攻後ユーロズロチで10%以上下落した。直近では4.86水準で推移している。ハンガリーフリントも対ユーロで10%以上下落し、直近のユーロフリントは390水準で推移している。その他の多くの東欧通貨も似たような動きだ。彼らは通貨下落を抑制するために為替の市場介入や利上げで対抗しているが、ロシアの次のターゲットとしての地政学的リスクの高まりの中で当局の政策も相場を転換させる力にはなっていない。

こうした中でスイスフランは安全通貨の役割を發揮している。ユーロスイスフランは1.0を切るか切らないかの水準で推移している。スイス当局がユーロスイスの下限を撤廃して一気に底が割れ1.0を切った2015年1月以来の相場水準だ。同じ安全通貨の円よりもその役割をウクライナに地理的に近いスイスの通貨が果たしているのは不可解な感もある。それはプーチンが愛人とその子供を避難させているのがスイスと言われるから安心感があるのだろうか。

スイスフランに劣らず安定している通貨もある。その一つは人民元だ。去年は多くの新興国通貨が対ドルで下落したが、人民元とルーブルは年初に比べて値を上げた。だが今年の値動きは大きく分かれた。

ロシアは戦い、ルーブルは暴落した。ロシアが貯めこんだ外貨準備は西側の経済制裁により通貨の中では人民元しか使えなくなった。外貨窮乏状態に陥ったロシアは世界一の外貨準備を持つ中国に借りるしかない。外貨収入源の石油やガスも中国に買ってもらうしかない。決済も人民元でするしかない。ロシアはもう中国と人民元に頼るしかないのだ。これで中央アジアや西アジアのロシアが軍事で掌握した地域にも中国は影響を深めることが可能になる。戦わずに勝つ。プーチンは悔しいだろうが 2500 年も前の兵法の歴史を持つ中国が一枚も二枚も上だ。